

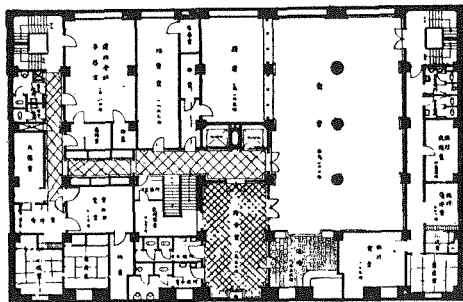
## 内容外觀の美と堅實なる工法

# 東京建物株式會社新築工事

東京驛の裏口、所謂横町線の大通りに昨秋新築落成した、八層樓の褐色大建築物こそ、オフィスとして實に豪華な近代的な内容外觀を備えた最近工事の一例である。

敷地面積は僅かに262坪餘であるが、建物の總延坪は2,451坪餘に及び、土地利用の點に於ては近頃稀なる設計である。尤も地盤面以下23尺餘の總掘をなして、地下二階を利用し、第一地階は一般食堂、理髮室、厨房、宿直室、便所其他に用ひ、第二地階は一般貸倉庫、煖房氣罐室、電氣室、機械室等に用ひられてゐる。第一階は玄關廣間、東京建物、營業室、銀行營業室、金庫室其他、中二階は金庫室内鐵板床、第二階より第八階は一般貸事務室其他して、建物軒高は地盤面上バラベツト上端迄100尺、建物最高は塔屋上部まで120尺に及ぶ。階数は前述の如く地下二階、地上八階、外に塔屋二階である。各階高は第二地階9尺、第一地階11尺、第一階15尺、第二階12尺、第三階及び七階は11尺、第八階12.5尺である。次に構造概要を摘記せん。

### 構造概要



(1) 東京建物株式會社ビルディング第一地階平面圖

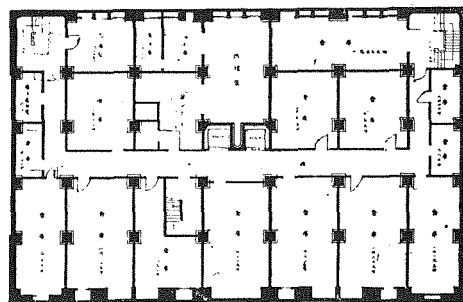
本建築は耐震、耐火の目的を以て鐵骨、鐵筋混凝土造とし、各階には耐震壁、防火壁が設けられた。

**基礎** 地盤面以下23尺の總掘をなして、各柱下には松杭長三間半のものを打込み、砂利層に達せしめ、又建物四隅には混凝土ウエル(8頁参照)を沈下し、其上に鐵筋混凝土基礎釵及び繫梁を築造す。

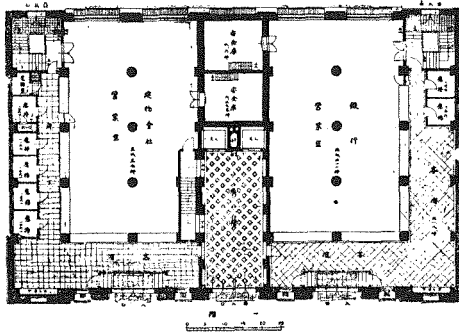
**主體** 鐵骨鐵筋混凝土造とし、鐵骨は組立柱及組立梁とし、鐵筋混凝土にて被覆す、床版、屋根、階段、耐震壁、防火壁等は鐵筋混凝土造りとす。

**外觀** 様式はビザンチンスタイルを加味せる近世復興式にして、外部仕上は、根石は北木島産花崗石、一階廻りは萬成産花崗石、背面、兩側面人造石洗出し仕上げ、二階表側は本邦産テラコッタ貼り、背面兩側面人造石塗洗出し仕上げ、三階より八階及塔屋はタイル貼とし、殊に八階はパターン・タイル貼とし、軒蛇腹及八階胴蛇腹は人造石洗出塗窓縁窓臺は人造石研出塗とし軒瓦はイタリアンタイル赤光色とす。

**内部仕上** 一般事務室壁天井は主として白



(2) 第二地階平面圖



(3) 一階平面圖

色プラスター塗仕上、幅木テラゾー床リノリューム敷込み、廊下、便所、床はテラゾー仕上便所は腰タイル貼とす。

**一階廣間** 銀行、會社營業室床テラゾー鎮銚ストリップ付及リノリューム敷、柱壁等イタリー産又は本邦産大理石、並にタイル貼とし、壁、天井プラスター彫刻模様付着色仕上とす。

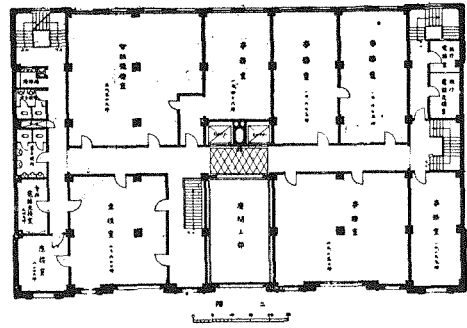
**地階** 食堂、待合室、酒場等は天井彫刻付プラスター塗、壁はプラスター・スタツコ仕上腰壁タペストリー・タイルを貼り、床テラゾーストリップ付仕上とす、其他倉庫、物置等は床壁共モルタル塗仕上とす。

**建具** 外側窓スチールサツシュ、揚げ下げベンチレーター付一部兩開を用ひ、プレートワイヤガラス及びラフワイヤガラスを嵌込み一階窓は特にスチールシャッター及び鐵格子を用ひ、防火防盜に意を盡し、銀行及び會社金庫扉は米國デーボルトスタンダード會社製第五〇七號、扉の厚十二吋八分七、正味厚七吋非常口扉共取付く。

**出入口扉及防火扉** 一階正面出入口はブロンズ製グリルドア外部各出入口扉及び第二地階扉各階々段室、防火扉及び防火シャッターは凡てスチール製とし、防火に意を盡せり。

一般事務室其他内面せる出入口及窓等は凡て木製とし、出入口錠は夫々特製のものを使用したり。

### 附 帶 設 備



(4) 二階平面圖

**昇降機** 容用二臺、米國オーチスエレベーター會社ギーヤド・トラクシオンマシン、容量2,000 封度、二臺、十一人乗り。但し一臺は3,000 封度に兼用し得る装置付。速度毎分300呎。行程第二地階より屋上迄114.5尺。昇降口數、各十一ヶ所宛。昇降體の大き、間口5尺6寸、奥行4尺5寸。昇降籠及び昇降口扉は米國タイラー會社製品を使用す。

**暖房** 眞空式低壓蒸氣暖房装置として第二地階汽罐室にアメリカン・ラヂエター會社製アイデナル・レド・ジャケツト型3S11第號蒸氣汽罐三臺を据付け、何れも米國ダブルユーエスレー會社製第二號重油燃燒機を取付け、各階各室に夫々放熱器を配置す。

**換氣** 第一通風装置、第一地階、大食堂並に料理室等の排氣。第二通風装置、第一地階酒場、小食堂、宿直室、湯沸場、衣帽室及び便所等の排氣。第三通風装置、第一地階殘部並各階便所、湯沸場等の排氣。第四通風装置。第二地階の排氣。第五通風装置、第二階より第七階廊下並に昇降路等の排氣。第六通風装置、第一階金庫室の排氣。以上の如く設備し汚染せる空氣は夫々送風管排氣機にて屋外に放散す。

**電氣** 電燈及び動力用電力は東京電燈株式會社より専用地下線に依り三相三線式電壓3,000 ヴォルトの送電を受け之を第二地階變電室に導き、遞減變壓器に依り動力用として200 ヴォルト(100キロワット) 電燈用として100 ヴォルト(100キロワット) に低壓し之を各室

に配電す。各室への配線はシエラダグト・チューブに納めコンクリート中に埋込とす。尙各室の電燈數は500燈、コンセント數は222箇所とす。一般照明はシャンデリヤ及セミインダイレクト器具とし、一階廣間地階レストラン及酒場はインダイレクト照明とす、

**電氣時計** 雄工社製電氣時計を左記の通り設置す。親時計、會社營業室一ヶ所。子時計、地階以上八階迄エレベーターロビーに一ヶ所宛及び銀行營業室、地階會社食堂、會社事務室、大食堂、二階重役室、交換室に各一ヶ所宛、計十五ヶ所とす。

**電話** 加入、回線 200回線を二階交換室に引込み、ワイヤモールドにより各階、各室に分岐するものにして、二階迄は25對線、三階以上八階までは各階50對線とす。私設電話交換機、對自動共電式一臺を設け會社専用とす。

**電鈴** 銀行用小使室に12ヶ付表示器一ヶ所、會社用小使室に14ヶ付表示器一ヶ所を設備す。

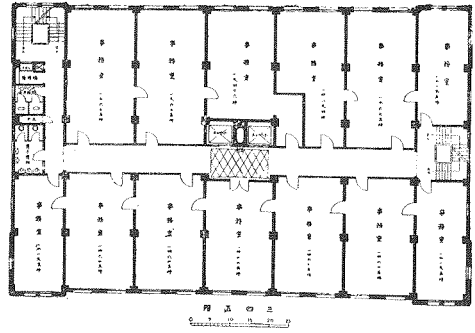
**メールシュート** カットラー型を使用し、シュートは單式とし、エレベーターロビーに設け、メートルボックスは一階廣間に設置す。

**給水** 市水道線及鑿泉水の二系統とし、夫々屋上水槽に揚水し、重力式自動給水法により、左の如く各所に給水す。市水道水、厨房、各階湯沸場、消火栓。鑿泉水、各階便所手洗、便器洗滌用、撒水用、噴水用、靴洗用、尙此の外汽罐用として特別計量器一ヶ所を設く。

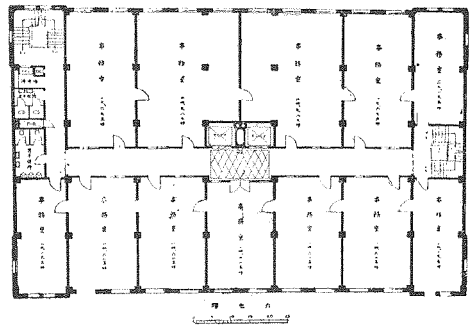
**給湯** 各階湯沸場に瓦斯湯沸釜を据付け飲料用に供す。

**消火栓** 各階に一ヶ所宛、電氣スイッチ付自動消火栓を装置し、用水は第二地階10馬力消火栓用ポンプより給水し、尙屋上水槽よりも連結し、水槽及消火ポンプの兩方より給水し得る外、正面壁付サイアミースコンネクション二個を設備せり。

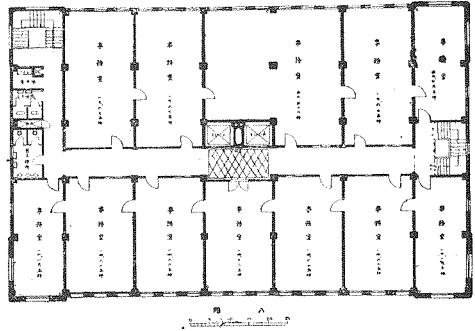
**排水** (一)二階より八階に至る大小便排水自然排水。(二)一階より八階に至る洗面、流し、



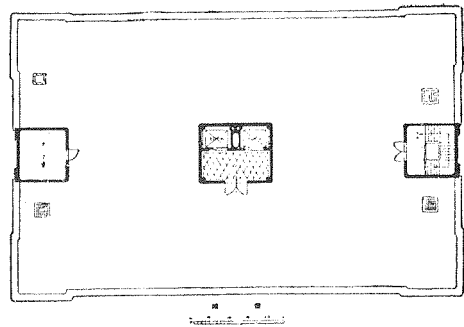
(5) 三、四、五階平面圖



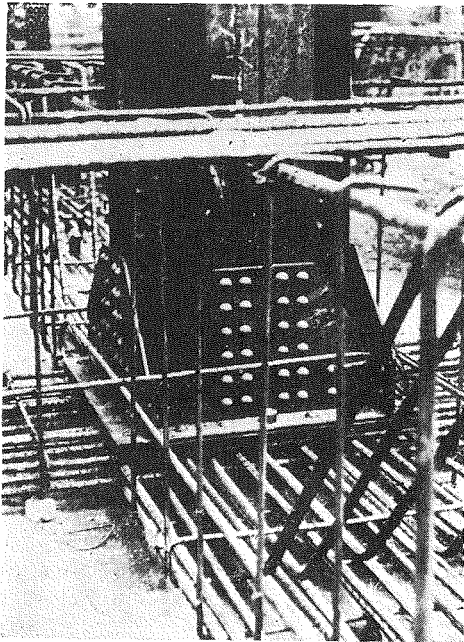
(6) 六、七階平面圖



(7) 八階平面圖



(8) 屋根平面



(9) 基礎梁鐵筋組立

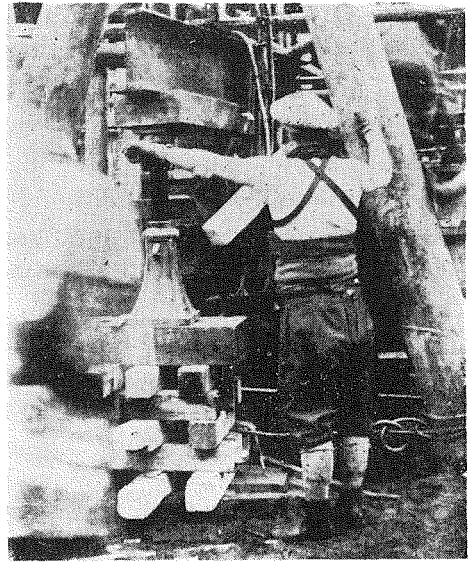
排水、自然排水。(3)地階は大小便排水、汚水吸揚ポンプ排水。(4)地階は雑排水及エリヤ排水、普通汚水吸揚ポンプ排水。以上四系統に分ち夫々屋内集水溜に導き市公設下水道に直接放流す。

**臭氣排氣** 臭氣換氣管は三ヶ所に立上げ、最上階天井に於て各連結なし、パイプダクトを通し、四吋主管を屋上に立上げ、頂部には銅製ベンチレーターを附す。

**便所** 地階には男女共各三ヶ所宛、二階以上八階までは各階男女用各一ヶ所宛設けたり。大便器洗滌にはフラッシュバルブ式、小便器洗滌には自動シスタン式装置をなし、食堂附屬化粧室には米國シカゴ・ハードウェア・フアンドリー會社製サニ・ドライ男女用各一ヶ所宛設備す。

**塵芥處理** 第八階より第二地階、塵芥處分室に至るダストシュートを設け、各階投入口より投棄處分室に導き即ち消毒處理するものとす。

**工事工程** 着手昭和三年九月一日。上棟、



(10) 裏側土留用Iビーム抜取作業

昭和四年六月十日。竣工、昭和四年十月三十日。

**工事關係者** 經營者、東京建物株式會社。設計、工學博士阿部美樹志。施工者大倉土木株式會社。

**現場工事關係者** 東京建物株式會社技師前田利八氏、阿部事務所高橋技師、大倉土木株式會社建築部技師山田馬治氏。

**諸設備工事關係者** 西原衛生工業所、電氣装置古關商會、通風装置朝倉製作所、サツシユ田島工業株式會社、オーチスエレベーター別府ステンド硝子製作所。暖房齋藤事務所。

—EXTRA COLUMN—

清水隧道貫通後の實測に依れば、全長に於て三尺六寸四分短縮され、高低に於て一尺二寸、中心線に於て九吋の差があつた。

四千五百尺の地下に於て岩質は閃綠岩、石英斑岩等が交互に層をなし、花崗岩は現れなかつた。

坑内の溫度は普通攝氏十四度であるが、風のある時は十一度位に低下する。貫通後は坑内の風速毎秒二十呎に達した事がある。